

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月26日～10月2日)

2022年12月13日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- マケイ外務大臣が第77回国連総会に出席(9月21日～26日、於ニューヨーク)
- ベラルーシ・ロシア両国首脳会談(9月26日、於ソチ)
- ルカシェンコ大統領がアブハジアを訪問(9月28日)
- スイス大使等がルカシェンコ大統領に信任状奉呈(9月30日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ベラルーシ・ロシア両国首脳会談(於:露ソチ)

ルカシェンコ大統領の発言は要旨以下のとおり。

・ベラルーシ・露には経済制裁が科されているが、普通に生活できている。輸入代替は順調に進んでおり、恐れることは何もない。

・食料品や肥料の価格がベラルーシ・露国外で高騰しているが、価格をつり上げたのは我々ではない。

・欧州の未来は我々とともにある。欧州は敬意をもち、我々に接しているが、貶められることは我慢ならない。ベラルーシ・露とともに平和に暮らしたい、我々を尊重したいという者に、我々はオープンである。

・露には2,500万の予備兵力があり、たとえ3万人、いや5万人が逃げても問題はない。逃げるままにさせておけばよい。

(9月26日 大統領府)

●ルカシェンコ大統領のアブハジア訪問

・当地ニュースサイト「ゼルカロ(鏡)」は「アプスヌイ・プレス」を引用し、大統領が自称「アブハジア共和国」に非公式訪問し、ブジャニア「アブハジア共和国大統領」と会談したと報道。

・大統領府は、大統領が「黒海北東沿岸の史跡を訪問し、ブジャニア氏と会談した」と発表し、アブハジアの地位については曖昧な表現にとどめた。

・ジョージア外務省はリス駐ジョージア・ベラルーシ大使を召喚。ルカシェンコ大統領のアブアアジア訪問はジョージア国境の侵犯であるとして抗議。

(9月28日 大統領府、「ゼルカロ(鏡)」)

●スイス大使等がルカシェンコ大統領に信任状奉呈

スイス、アラブ首長国連邦(UAE)、スーダン、ブラジル、キューバ、パレスチナ、アルゼンチン、ベナン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ミャンマー、マルタ騎士団
(9月30日 国営ベルタ通信)

●中国・国慶節に寄せたルカシェンコ大統領から習近平・中国国家主席に宛てた祝電

祝電は要旨以下のとおり。

・共産党の指導の下、中国は「第2の100年」の実現のため、断固たる措置を講じ、ますます近代的で繁栄する強力な国家となっている。

・ベラルーシと中国の協力は、新たな要素により日々豊かになり、一貫して強固なものになっていっている。2022年9月、我々は両国関係を、鉄のような兄弟関係、全面的な戦略的協力及び全天候型パートナーシップというレベルに引き上げた。ベラルーシは、上海協力機構(SCO)への全面的な加盟に向けた路線を進み始めた。

・ミンスクは、「一帯一路」イニシアチブ及び同イニシアチブとユーラシア経済同盟(EAEU)の接合の積極的な参加者であり続けており、北京とともに、各人の声、どのような国家かの別なく尊重される、公正な新世界秩序の形成を促進している。

・国際関係進展の現在の段階において、ベラルーシと中国は、外交及び経済の分野における行動をますます協調させ、二国間協力を深めるための新たなイニシアチブを具現化させてゆく。

(10月1日 大統領府)

【外交】

●マケイ外務大臣が第77回国連総会に出席(9月21日～26日、於ニューヨーク)

(1)国連総会におけるマケイ外務大臣の演説

演説は要旨以下のとおり。

・ウクライナにおける紛争のそもそもの原因は、西側が冷戦終結時に敵方ソ連を踏みにじる態度をとり、露やベラルーシの安全保障上の利益を無視して北大西洋条約機構(NATO)を拡大させてきたため。したがって、ウクライナで進行中の流血の責任は、西側諸国が負わなくてはならない。

・西側の制裁で肥料や食料の供給が減少し、発展途上国の貧しい人々が苦しんでいる。また欧州自身も、この冬の暖房用エネルギーの問題に直面している。一方でベラルーシや露は自給自足できており、制裁は失敗に終わっていることは明らか。

・ベラルーシは隣国ウクライナでの紛争に影響を受ける国であり、和平交渉のプロセスと、その結果として生じる安全保障体制の両方において切り離すことのできない部分でなければならない。

(2)多国間会合

・集団安全保障条約機構(CSTO)及び非同盟運動の外相会合に出席。

(3)二国間外相会談

・ロシア、シリア、カザフスタン、ベネズエラ、ジンバブエ、セルビア、トルコ、ハンガリー、パキスタン、ニカラグア、ブラジル、インド、モルディブ、イラン。また、グテーレス国連事務総長とも会談。

(9月22日～27日 外務省)

●仏メディア「フランス 24」によるマケイ外務大臣へのインタビュー

インタビューは要旨以下のとおり。

・ウクライナにおける状況は、2014年以降戦争が続いていると言える。ウクライナはベラルーシにとって経済面・貿易面で極めて重要なパートナーであり、可能な限り早期の停戦に関心あり。

・ベラルーシでは予備役召集は予定されていない。ベラルーシはこの戦争に参加することはなく、この戦争の当事者ではない。

・ベラルーシは核兵器の使用に断固反対。ベラルーシに核兵器運用可能な兵器が持ち込まれているのは、自国の安全保障につき考慮した結果である。ベラルーシは、いかなる兵器も、誰に対しても、使用することなど考えていない。

・ウクライナの露軍占領地域の露への編入に関する「住民投票」の結果に関し、状況を注視し、ベラルーシ独自の決定を、他国でなく自国の国益に則って下す。(9月23日「フランス 24」)

●露国営メディア「リア・ノーヴォスチ」によるマケイ外務大臣へのインタビュー

インタビューは要旨以下のとおり。

・露軍基地のベラルーシ領内への設置には、特段の意味はない。露西部のスモレンスク州等にしかるべき兵器を配備する方がより効果的。

・露の核兵器のベラルーシへの配備の問題については、両国の大統領及び国防省レベルで協議されると承知している。全ては西側からベラルーシ及び露に対する直接的な脅威次第。

・チハノフスカヤ氏をエストニアの公式代表団に同行させるのみならず、エストニアの外務大臣がベラルーシ国民の名において発言したことは非常に不愉快。ベラルーシ駐在エストニア外交団の縮小と、駐エストニア・ベラルーシ大使の召還を決定。

(9月26日 外務省)

●アムブラゼヴィチ外務次官のウィーン訪問(9月26日～30日)

・国際原子力機関(IAEA)総会に出席(9月26日～30日)。27日にはIAEAのベラルーシ国別プログラムに署名。

・また、26日にはワーリー国連薬物・犯罪事務所(UNODC)事務所長とも会談。

(9月26日～28日 外務省)

●アレイク外務第一次官と謝小用駐ベラルーシ中国大使の会談

・9月28日、両国の協力の当面の問題につき意見交換。特に、上海協力機構(SCO)首脳会合の際に行わ

れた両国首脳会談での合意事項の実施につき協議。
・29日、アレイニク外務第一次官は中華人民共和国
建国73年オンライン会合に出席。
(9月28日、29日 外務省)

●アレイニク外務第一次官は、カリカルテ・キューバ
商業会議所会頭と会談

・二国間の貿易・経済面での協力の現状と見通しにつ
き協議。
・特に、農業・製薬・情報技術(IT)・生命工学の各分野
における連携に留意。
(9月30日 外務省)

【内政】

●10月1日現在の政治犯の数は1,324人

(10月1日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●ポーランドで、ベラルーシ国境沿いの防壁が完成

・総延長は186.25kmで、49,000トンの鋼材が使用され
ている。
・ジャリン特務機関調整担当大臣付報道官は自身の
Twitterを通じ、この障壁の完成により、ポーランドへ
の不法越境が完全に防止される旨、ポーランド語・ロ
シア語・アラビア語で発信。
(10月1日 「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(9月26日～10月2日)
・リトアニア国境警備局は少なくとも450人を阻止。
・ラトビア国境警備隊は少なくとも94人を阻止。
・ポーランド国境警備隊は少なくとも230人を阻止。
(9月27日～10月3日 BPN)

【経済】

●前大統領官房長の子息が関係する企業に対する
ジンバブエにおける訴訟

・ジンバブエで、ドイツの投資家が所有する地域にお
いて、ベラルーシ及び中国と関係する企業が地権者
の許可なく金を採掘しており、その騒音により、同投

資家が運営するロッジの経営に悪影響を及ぼしてい
るとして訴訟されている。

・地元裁判所は採掘の一時停止を命じたものの、被
告の両企業は9月6日から採掘を再開。
・本件において金採掘を行っている企業には、シェイ
マン前大統領官房長の子息及び駐ベラルーシ・ジン
バブエ名誉領事が関与。
(10月2日 Reform.by、「ゼルカロ(鏡)」)

(了)